

令和2年4月吉日

保護者各位

岡崎市立六ツ美北中学校
校長 天野 孝志

生徒の自己学習力を伸ばす本年度の取組について

陽春の候、皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは本校のためにご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、本年度の教育目標を「豊かな心と確かな学力を培い、心身をたくましく鍛え、自ら主体的に考動する生徒の育成」とし、その一環として、生徒の自己学習力を伸ばすために下記の取組を進めます。ご家庭のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

記

1 与えられていた学習から自分で考えて進める学習へ

3月から臨時休校となり、家庭での時間が増えて、気付いたことはありませんか。こういう時に必要な力は、自分で学習を進めることのできる力(自己学習力)であることに。今までは、学校から指定された学習(宿題)をしていればよかった。宿題のない日は「やったー」と言って喜んでいたと思います。私も学生時代は、そうでした。しかし、このように突然学校が休みになって、出された宿題はすぐに終わってしまい、その後、学習を自分で進めることができたでしょうか。

また、将来、職業に就いたときに、今まで経験してこなかったことを任せられ、自分で勉強して進めなければならないという場面に出くわします。その時に必要な力も自己学習力です。

私たちは、中学生の皆さんに、この中学校で学ぶ間に少しでもこの自己学習力をつけてほしいと願っています。そのために、本年度、次のことを進めていきます。

2 「めたぶれ」サイクルを自分のものに

①学習することを自分で考える

与えられてする学習から脱却するためには、まず、自分で何を学習するか決めて「めあて」を書くことです。初めは、何をしたらよいか分からないという人もいるでしょう。そういう人のために、学校では、例えばこんな計画を立ててみたらどう?というプリントが配られます。初めは、それに従って学習を進めてみるのもよいでしょう。慣れてきたら、自分で計画を立ててみて学習を始めることができるようになったら、自己学習力が伸びてきたということになります。

②自分の力をためして知る

次に、教科書、授業で使っている資料や教材、学校でもらったプリント、自分で買って来た問題集などを使って、簡単な「ためし」のテストを試みます。学校で配られた予定表を使って進めている人は、今日の学習計画に載っているところを取り組んでみます。問題を解いてみるだけでもよいです。そして、答え合わせをします。今までの宿題だったら、ここで終わっていたと思います。自己学習力をつけるには、ここからが大切なのです。

③己を知ることが強くなる秘訣

「ためし」をしてみた問題の中でどういう問題が分からなかったのか、間違えた問題はどんなところで間違えていたのかなど、自分で「ぶんせき」をします。この「ぶんせき」をぜひノートに残しておきましょう。教科ごとにノートを作ってもよいし、いろいろな教科を一冊のノートにまとめていってもよいと思います。ここは工夫次第で無限に勉強法が広がっていきます。また、これがそのまま中間テストや期末テストの勉強にもなっていきます。テスト前に慌てて一夜漬けしなくても済むようになります。また、このノートを担任にぜひ見せてください。それが下の4につながります。(工夫している様子を仲間に伝えることができます)

④分かったことを本物の力に変えるのは地道な努力

「ぶんせき」したら、それをもとにもう一度問題にチャレンジしてみます。「れんしゅう」してみるのです。スポーツでも一つの技を習得するとき、指導者から得たヒントやコツをもとに、繰り返し練習すると本物の力がついてきます。それと同じです。「ためし」でしてみた同じ問題でもよいし、他の問題集やプリントの問題でもよいし、そういうことを自分で考えて進めていくのです。これが自己学習力です。

この「めあて」→「ためし」→「ぶんせき」→「れんしゅう」→次の「めあて」→「ためし」→というように、「めたぶれ」をぐるぐる回して進めていきながら自己学習力をつけていこうというわけです。

3 「宿題を出して」とは言いません

学校ではもう「宿題を出して」とは言わないことにします。与えられてする学習から脱却し、自分で考えてする学習を進めていくのですから。もちろん、今までのようにクラスに宿題チェック係はいなくなります。(係を作るならめたぶれノート集配係くらいでしょうか) 極端なことを言えば、家庭学習をしてこなくても叱られることはありませんし、ペナルティもありません。だから、安心して学校へ来てください。「学校は安心してこられるところ」というのが一番大切なことです。そういう学校に私たちはしたいと思っています。そして、安心して学校に来るうちに「自分でやってみようかな」という思いを自然にもってほしいと思っています。その心こそが、自己学習力のもとになるのですから。

4 「まなぶ」の語源は「まねる」

「自分でやってみようかな」と思っても最初からうまくいく人は少ないでしょう。自己流で進めていくのもよいですが、周りには助け合える仲間がいます。それが学校の良いところです。仲間がどんな勉強の仕方をしているのか、どんな「めあて」を立て「ためし」してから、どんな「ぶんせき」をして、どうやって「れんしゅう」しているのか教え合う機会を学校でもちます。その時間には、積極的に仲間と情報交換してください。「このやり方はいい」と思ったらどんどんまねしてみます。「まなぶ」は「まねる」ことから始まります。そうしているうちに、自己学習力は知らず知らずのうちに伸びていきます。

(問い合わせ先：六ツ美北中学校 校長 Tel 54-2431)